

さと
やすらぎの郷



1996

20th
Anniversary
特集

2016



創設20周年を迎えて

園長 田中 智久

向暑の候、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素より当園に格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、やすらぎの郷は平成8年6月に福岡都市圏広域行政事業組合によって建設され、日本赤十字社福岡県支部が受託運営しておりましたが、平成17年には建物の無償譲渡を受け、以後赤十字施設として、人道博愛の理念のもと、地

域に密着した温もりのある質の高い介護の実践に日々努め、本年6月には創設20周年を迎えることができました。

これを契機として、今後も研鑽に努め、真に必要な介護サービスが提供できる施設となるよう一層心を引き締めて活動を続けてまいりますので、深いご理解と、今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

安堵の場所で あり続ける ことを願って

エレキギターを演奏する水鳥会長



やすらぎの郷家族会会長 水鳥 弘一

「やすらぎの郷」が創設20周年と伺いました。おめでとうございます。私は、他の施設の内容等を存じませんが、「やすらぎの郷」の職員の方々が、入所者である義母に優しく接しておられる事を理解しております。

同居していた義母が少しずつ「今」を忘れ始め、荒い行動が増え始めて、約半年間の病院を

経て、ここに入所しました。新たな行き先が決まった安堵感と、新しい場所に対する義母の不安そうな顔とを覚えています。それから丸10年が経とうとしています。

入所者の家族にとって、ここ、「やすらぎの郷」が安堵の場所であり続ける事を願って、家族会として微力ながらお手伝いをしております。

やすらぎの郷の出来事



落成式の様子 (1996年)



運動会 (近隣の幼稚園も参加) (1997年)



N響メンバーコンサート (2006年)



夏祭り (1998年)



夏祭り (1998年)



敬老のつどい (2000年)



年賀式 (2000年)



七夕まつり (2001年)

開所

福岡都市圏広域行政との
施設管理業務に関する
委託契約の締結により
事業運営開始

三笠宮信子様来所

ケアプランセンター開始

特養ユニットケア開始
(約2年間実施)

福岡都市圏広域事業組合より
建物の無償譲渡を受ける

1995
平成7年

1996
平成8年

1997
平成9年

1998
平成10年

1999
平成11年

2000
平成12年

2001
平成13年

2002
平成14年

2003
平成15年

2004
平成16年

2005
平成17年

65歳以上
人口割合
14.6%

主に介護に関する

社会の出来事

日本赤十字社
創立120周年

介護保険制度施行
高齢者の介護を社会全体で
支え合う仕組み
所得に関わらず1割の
利用者負担

福岡西方沖地震
介護保険制度改正
介護予防の重視
施設給付の見直しなど
〔痴呆〕から〔認知症〕へ
名称変更



東日本大震災救護活動 (2011年)



間垣部屋力士交流会 (2012年)



コスモスガーデン (2012年)



東日本大震災救護活動 (2011年)



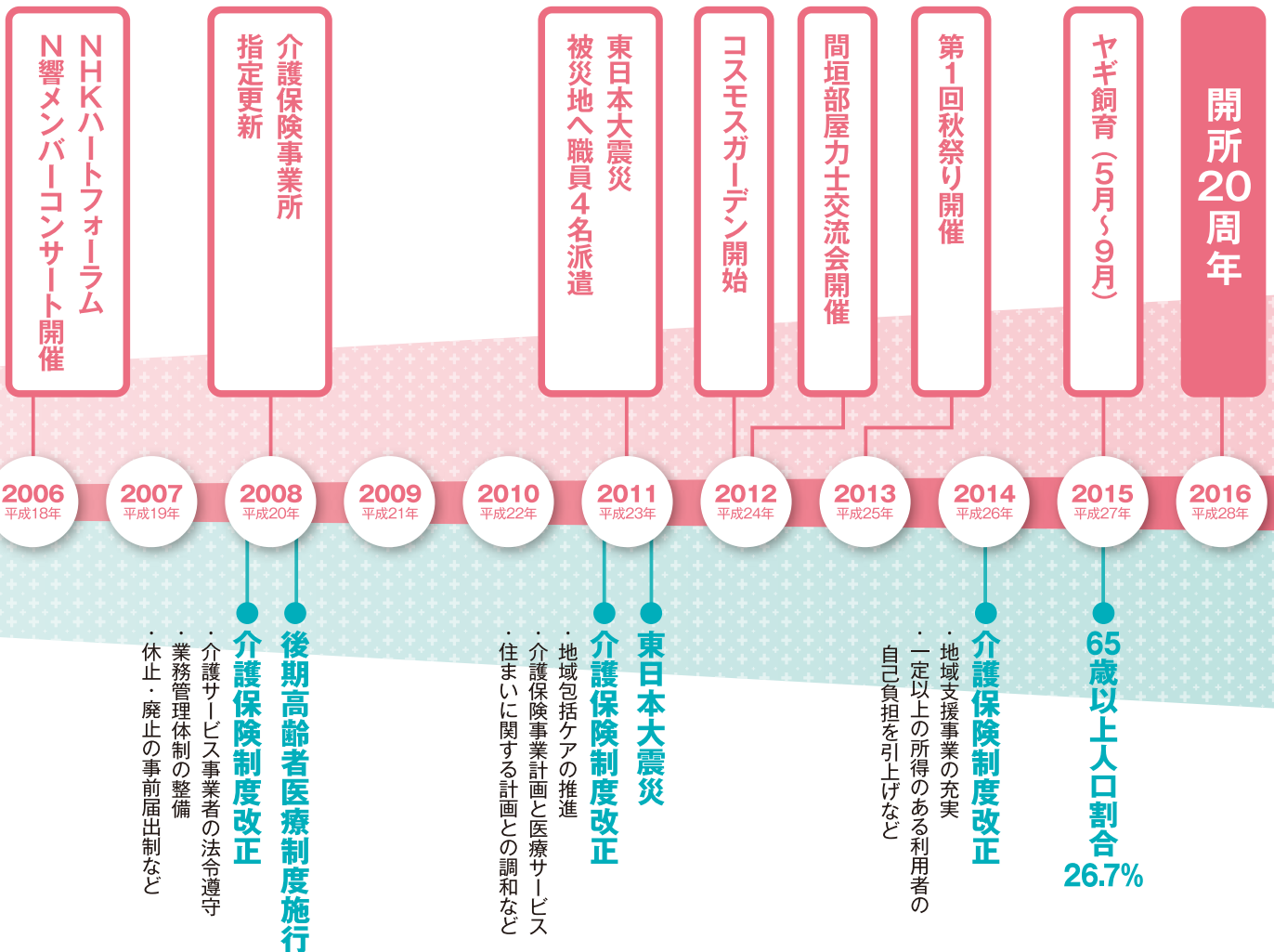
秋まつり (2013年)



ヤギ飼育 (2015年)



東日本大震災救護活動 (2011年)



開設スタッフ 座談会



やすらぎの郷が平成8年6月に開設されて20年が経ちました。

それを記念して、開設当初から「やすらぎの郷」で勤務している職員12名全員で、これまでの歴史を振り返りました・・・というより、思い出話に花を咲かせました。

昔の写真を見ながら「うー若い」「まだこんなにスリムだったんだ」「あ～〇〇さん!懐かしい」「そうそう、この時大変だったよね～」「昼食はバイキングだったよね」など、その頃の記憶が鮮明に思い出されました。そして同時に、その頃の職員自身の心のありようを思い出させてくれました。

開設当時は、当然ですが何もかもが無く、書類の様式やルーティンワークも皆で考えながら作り出しました。やすらぎの郷で初めて介護を経験するスタッフも多く、試行錯誤を繰り返しながら、何よりもご利用者の笑顔を見るために自由な発想で、さまざまなケア方法、行事などを考えてきました。

現在と比べて軽度のご利用者が多かったこともありますが、ナイトパブや、映画鑑賞、釣り堀、

外出レクリエーションなど、「こんなことしたら皆さんが喜ぶのでは・・・」と思考を凝らし、さまざまなことに挑戦しました。誰もが熱い心で、地域ナンバーワンの施設を目指していた「あの感覚」がよみがえってきました。

座談会の後半は、「では現在のやすらぎの郷はどうであるか?」を真剣に話合う時間となりました。「新たに加わった職員が、自由な発想で意見や提案ができるような雰囲気があるか?」「なぜそのような自由な発想ができたのか?」などについて、様々な意見を交換しました。

現在のやすらぎの郷は、開設当時と比較すると重度のご利用者が多くなり、昔のような娯楽的要素よりも、安楽に安心してご利用者に過ごしていただくためのケアの在り方が求められています。介護報酬の改定などにより、介護業界全般に閉塞感を感じるころですが、開設当時のあの熱い気持ちを忘れずに、これからも「やすらぎの郷のプライド」を胸に刻んで、「一歩前を目指す施設でありたい」との想いを座談会で共有することができました。



安達 居宅介護支援係長

田邊 主任介護職員

渡邊 事務職員

吉田 介護課長

別所 介護職員

柳池 主任調理師

井上 生活支援係長

鶴園 主任セラピスト

竹中 東棟介護課長

福富 主任介護職員

田邊 西棟介護課長

片瀨 主任看護師



デイサービス

～20年を共に～

当施設の開設当初からデイサービスをご利用いただき、通所歴20年を迎えたご利用者の方が3名いらっしゃいます。3名とも通所回数は2000回を超えており、やすらぎの郷デイサービスの20年を一緒に歩んで来られた方々です。



ご家族より

デイサービスではリハビリを頑張っています。初めは木彫りやタイルモザイクを制作していましたが、今は貼り絵に夢中のような様子。貼り絵も、以前は風景画が多かったのですが、現在は子どもが知っているキャラクターを制作しています。

20年間で作った作品は山のようにあり、個展を開けるほどです。

三浦 順一 様

展示している作品の一部



20年間毎回、利き手ではない左手で、器用に貼り絵制作に取り組まれてきました。

最近では2週間に1作品のペースで作品を完成させています。作品はやすらぎの郷にも展示しており、施設内に華を添えてくれています。



ご本人より

58歳からやすらぎの郷に通っています。私はもともと専業主婦でしたが、今は夫が家事などを受け持っていて、私を支えてくれています。デイサービスでは、得意の手芸に取り組み、帽子や小物入れなどを作ってきました。今は、カラオケが好きで、歌って楽しんでいます。これからも元気に通い、手芸やカラオケを楽しみたいと思います。

中牟田 勝子 様

素敵な歌声を披露する中牟田さん



言葉が出にくいからという理由で、歌をうたうリハビリを始められました。20年間コツコツと続けられ、今では会話もスムーズになりました。

「デイサービスの母」という言葉がびったりの中牟田さん。中牟田さんの知恵や経験など、職員に色々なことを教えてくださっています。



ご本人より

昔は、ソフトボールのピッチャーをしており、身体を使うことが得意でした。今でも、やすらぎの郷の運動会に毎年参加し、楽しんでいます。

また、洋服が大好きで、昔からの服を大事にして、毎日、色の組合せに気を使っているような服を着てデイサービスに来ています。

石川 シゲ子 様

運動会で選手宣誓をする石川さん



20年前から変わらずオシャレな石川さん。やすらぎの郷の開設当初には、中心となってデイサービスを盛り上げてくださいました。20年間、石川さんと一緒にデイサービスを創り上げてきた感じがします。

日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

平成28年7月発行